
最弱の飼い主と世界最強の転生猫

シャルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最弱の飼い主と世界最強の転生猫

【Nコード】

N4784Z

【作者名】

シャルル

【あらすじ】

転生を何度も繰り返した男、平成生まれの少年、そんな彼は一度目の転生で魔王になり最強の魔力を得た。次に二度目の転生で人のいない世界、魔物だけの住む世界へ転生しそこで最強の剣術をマスターその後、三度目の転生で彼は本足歩行の普通の猫へと変わった。しかし、剣を口に加えるとあらゆる剣士を負かし、一度魔法を発動させると、敵をことごとく粉碎していく。

そんな主人公の異世界ファンタジー

三度目の転生は人外の者

幾千の世界、幾千の星が、この広い夜空の彼方にはある。

人は誰でも異世界へ憧れ、夢を、理想を、様々な事を願って日々の日常を過ごしている。

他者からのストレスや、社会的拘束からの開放を求めて、人は違う世界へ行ってみたいと思うのだらう。しかし、これだけは言わせて欲しい。全世界の異

世界に憧れる人間たちよ

異世界なんてそんなにいいもんじゃないぞ？ 怖い魔物出るし、自動販売機も無ければ

絶対に安全といえる国もない。そこらじゅうに日本では銃刀法違反扱いになる

刃物を手にした連中入るし、殺傷能力のある魔法だってある。そしてなにより転生先が平和な異世界とは限らない。

俺、竜崎・隼人様が経験した異世界のことをこれから話そう。

まずはじめに言っておく、俺は平成生まれの日本人だ。だがそれももう100年ちかく前の話になる。日本という世界がある元の世界で

生きていた俺は、高校最後の夏、小さな子供をかばって車にひかれて死んだ。

即死だったらしい。その後すぐに俺は暗闇に飲み込まれた。

死んだら神様やら死神やら現れるのではないのか？ とその時は思ったが

その思考もしばらくして暗闇に飲み込まれ、完全なる闇へと俺は落ちてしまった。

飲み込まれてすぐに、俺の意識は突然浮上した。

それはなんの前触れもなく、本当に突然だった。

暖かな感触が頬を舐める。

それに思わず閉じていた目はあるはずのない目を開き視界はうつすらと照らされた小さな部屋を映し出した。

そこには白色のベットとオレンジ色の光を放つ蝋燭のような物が部屋のあちこちに

置かれ、すぐとなりにはテラスへと続く窓のようなものが月明かりを僅かに漏らして開いていた。

再びあの生温かい熱が頬に走る。

思わずその方向によくわからないまま目を動かす。するとそこには黒髪をした

美しい瞳をするティアラを頭にかけて若い女が上着だけを着た状態で

寝転んでいた。どうやら俺自身も寝転んでいるのか彼女と同じ高さで目が合わさった。

同時にぼやけていた意識が更にすっきりと晴れていく、同時にペロリと舌で唇を舐める

女が、俺に対してやわらかな甘えるような声で言葉を漏らした。

「ねえー魔王様……どうしたの？ 突然ポーとしちゃって

早く続きしましょうよ……ねえー早く」

彼女の片手が俺の首元に触れると、甘い匂いと大きな胸の柔らかな感触が

俺という男の体を反応させた。

俺は慌ててもがくようして一歩後へ下がるが、彼女は微笑し迫ってくる。

「ちょ、ちょっとタンマ、えーと……今の状態は一体どういう状態なんでしょつかね？」

その日、俺は一度目の転生をした。

転生というよりも一度目は存在している存在の魂を侵食し、己のものにした

という方が正しいだろう。

なにがどうあれ、一度目の転生は魔王軍の最強将軍、魔軍の王、魔王だった。

その時、その世界の魔法はすべて習得し、絶大な魔力を手に入れた。

あの頃の俺は眩しかった。異世界とはなんて最高な場所なのだろうと

思った。多くの女を抱き、子供にも恵まれた。人々とも停戦協定を結び、世界は平和になった。なのにあの勇者の野郎―は俺を

世界に不必要なものだといひ、俺の人生の幕を伝説の剣エクスカリバーで

終わらせやがった。あの時の屈辱と痛み、今でもこの身に記憶として残っている。

で、俺は再び魂を暗闇に飲み込まれ、次に目覚めた時は大樹とみどりのあふれる

恵みの大地だった。だがそこには何一つもない。言葉の通じるものはおるか

人という人種すらいない。その世界は魔物だけが住まう地獄のような土地だった。

俺の姿は白銀の髪をした以前の魔王の姿だった。肉体は前の世界に置き去りにしてきたはず

なのに、なぜ、と思ったが、60年もの年月はそんな俺の考えをどうでもいいものに変えてしまった。

俺はなぜか右手に握られた数本の刀を手に暇を持て余すかのようにして60年間も

魔物と狂ったように戦った。そして俺はその命を大地の魔物、エスカーダに飲み込まれ

一生を終えた。それが数分前の話、そしていま、俺は自らの姿を

悟り

絶望に前進が震えていた。

同時に頭上から声上がる。同時に俺の体は声の主を抱きかかえられ

両足を無防備に空にぶらつかせると、それに抗うことも出来ず俺はただ

眼の前に広がる軍服を着た16〜17の女を見据えて微笑を浮かべた。

「ミーちゃん、私はやるわ！ ロースファルド・アナスタシアの

上官ぷりを戦場で発揮してみせる！」

そう言つとオンナはやわらかな表情で俺の頭を撫でながらそして俺を

柔らかなさわり心地の地面に下ろすと、そそくさと部屋を出ていった。

「俺は二度も転生を繰り返した言わば異世界にかんしちゃー他者をうあ回る

適応力があるってことだ、しかしこれは無理、絶対無理。てか、これて

魔王の時と同じく他者の体を侵食し奪つたてことか？ だから今

の俺の体はこんな……白くて、柔らかな肉球があつて、長い尻尾を持つているのか……体中に白いと黒の毛が生えてて、てか

これ猫じゃん！ どう見ても猫じゃん！ 魔王だった俺が最強の俺が、ただの猫になつちまった！！！」

その日、猫の声が少女の個室から大きく漏れたことは言うまでもない。

三度目の転生は人外の者（後書き）

なんか、主人公を猫にしちゃいました。本当に四足歩行の見た目はただの猫です。その内に眠る力は最強？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4784z/>

最弱の飼い主と世界最強の転生猫

2011年12月16日03時53分発行